



平岡明子さん

福知山市
夜久野町

やくの木と漆の館勤務。43歳
生まれ&育ち：神奈川県川崎市
漆の仕事を求めてIターン。
ほどよい距離感で見守ってくれる地域の人々。
子どもを大切に思う気持ちが伝わります。

－移住のきっかけは？

漆工芸の技術を勉強するため京都へ来ました。京都市内で15年ほど勉強し、弟子明け後、どこへ居を構えるかと考えたとき、漆の産地で、木と漆の館という施設もある福知山へと思い、木彫をしている夫と当時3才の娘とで移住してきました。もともと移住を決める数年前から、館で月に一回金継ぎ教室の講師をしていたので、物件探しも教室のある日についてに見て回り、不安なく移住することができました。

－以前（都会）の暮らしは？

京都市でも一軒家を借りていましたが、夫婦で製作していたので作業スペースの確保が難しく、また隣同士が密集していて、少し気詰まりでした。ご近所さんとはただ挨拶する程度の関係で気楽に暮らしていました。

－田舎の子育ては？

引っ越ししたその日に下夜久野保育園へお話を聞きに行きました。年度途中から入ることが可能なのか・・・夫婦で不安な気持ちでしたが、とてもウエルカムでとにかくほっとしました。保育園では、子どもにも親にも向き合って保育していただき、大変感謝しています。私たちが移住してきたのは、夜久野町で3小学校が閉校し、新たに小中一貫校が生まれる変化の年でした。現在、娘も小学校3年生となり、毎日スクールバスで通っています。統合されたとはいえ、先生方に少人数の生徒をしっかりと見ていただいていると感じます。中学校卒業まで同じメンバーで過ごすのは良い面もありますが、夜久野から広い世界へ出て行くとき、気後れしないか心配ではあります。



－現在の活動は？

やくの木と漆の館で働いています。毎日いろいろなお客様が来られて、漆の作業を進めるお手伝いをしたり、館で販売している漆の商品を製作したり、ギャラリー展示の計画を立てたりしています。一方で自身の作品も製作し、漆にどっぷり漬かる日々です。今後は漆の仕事をするなら夜久野だと思ってもらえるようなブランドにしたいです。また、この場所を漆器を作る人、売る人、使う人の交流の場にしたいと考えています。



－移住を考えている人に一言

車は絶対必要です（笑）！
それはさておき、移住したら、やはり地域にいかにして溶け込んでいくか、というのが大きな問題だと思います。自治会の活動に参加するかどうか・・・私たちは、地域の皆さんから、2～3年は様子を見ながら、と言っていただき、ほどよい距離感で見守っていただいています。出会った時に一言二言お話しするだけなのに、娘の描いた絵が公民館に貼ってあったよと携帯で撮ってもらっていることもあり、じわっと嬉しくなる瞬間もあり、これは子どもと一緒に移住したからこそだなと思います。



－移住者と関わる人々－



やくの木と漆の館 小野田さやか 館長



平岡さんは、確かな漆工技術と熱心さで、とても頼りになる方です。生まれたときから漆に慣れ親しんでいる娘さんも含め、福知山・夜久野での漆振興に貢献していただける貴重な人材ですね。私も移住してきましたが、地元の方に比べ移住者の方が、その地域の魅力に気付く機会が多いような気がします。移住者が増えることで、地域の方が地元のことを見直してくれるきっかけになればいいですね。